

一般有料道路 白糸ハイランドウェイの取組について 地域資源を活かした雪国の観光

中谷和憲*1

1. はじめに

株式会社ガイアートは平成23年に国内有数の観光地である長野県軽井沢町にある一般有料道路「白糸ハイランドウェイ」を取得した。当道路の取得目的はPPP/PFIに向けた「道路管理者としてのノウハウの取得」と「新技術の実験実証フィールドの獲得」である。白糸ハイランドウェイは軽井沢町で唯一の有料道路（延長10Km）であり観光名所「白糸の滝」へのアクセス道路として年間約30万台利用される。（図1）



図1 白糸ハイランドウェイ位置図

避暑地で知られる軽井沢には年間約870万人（平成30年度）の観光客が訪れる。軽井沢の夏は涼しく過ごしやすいが、冬は極寒となる事から、観光の特徴の一つに季節毎の観光客数の偏りが挙げられる。（図2）その特性から11月の紅葉が過ぎると観光客は減少する。当社は年間を通して道路を維持管理しており、冬期は雪氷作業を行いながら営業している。軽井沢の冬は長く11月～4月まで雪氷作業は続く。

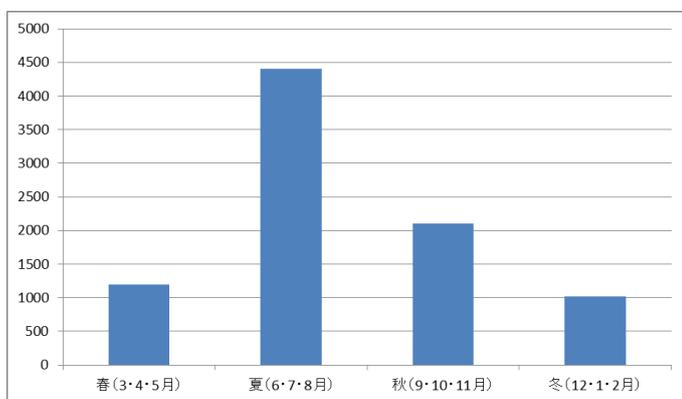


図2 令和元年 軽井沢季節毎観光客数

冬期の観光コンテンツはウィンタースポーツやショッピング等あるが飲食店や土産店等冬期期間休業する店舗も少なくない。観光事業として年間ある程度平準化された観光需要が望ましくこの偏りは課題である。

本件は、観光有料道路の通行収入により事業する当道路が、観光客が減少する冬期軽井沢の観光に着目し、地域特性の観光資源「白糸の滝」を活かした取組を紹介し地域資源を活かした雪国の観光戦略について報告を行うものである。

2. 観光資源

2-1 観光名所 白糸の滝

白糸の滝は、高さ3m幅70mの湾曲した形状の滝であり浅間山に降った雨が8年の歳月をかけて流れ出る地下水が絹の糸の様に浸み流れ出ている。（写真1）

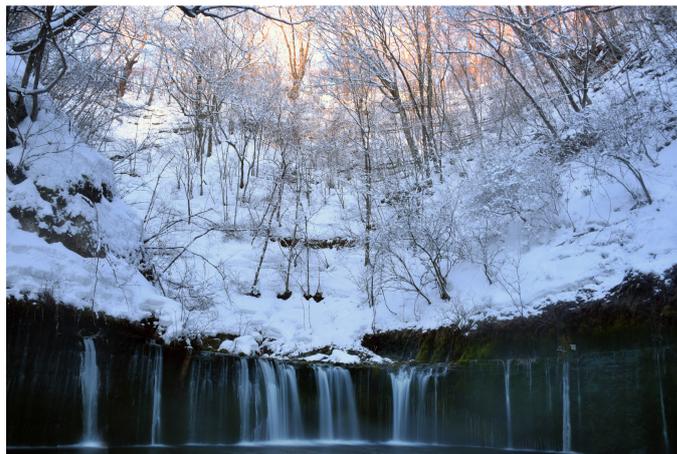


写真1 白糸の滝

この滝は長い年月をかけ繰り返された浅間山の噴火により地層が形成され誕生した自然の産物である。標高は1260mにあり上信越国立公園内に位置し軽井沢町が管理している。周囲は天然の樹木に囲まれ訪れる人はマイナスイオンを肌で感じ、絹のような滝の水の流れに心を癒される。流れ出る水は地下水である事から、濁る事は無くいつも澄んでおり浅間山の地熱により年中水温は10℃前後と一定である。冬の外気最低気温は零下10度となるが水温は一定であり凍る事は無く湯気が湧き出る程である。五感で大自然を感じる事が出来る天然の観光資源であり、当道路は重要な観光資源として清掃・除雪・広場や通路の整備など軽井沢町と一体となって行っている。

*1 株式会社 ガイアート 本社道路維持戦略室（出向：株式会社 白糸ハイランドウェイ）

2-2. 地域と白糸の滝

軽井沢には複数の観光地や施設が点在しており周遊型の観光地である。その中で白糸の滝は自然を代表とする観光名所となっており地域の観光連携の重要な役割を担っている事から町内従事者の興味も多い。当社はこの白糸の滝を活かして地域の観光に貢献する為、まずは地域の白糸の滝に対する要望や意見を聞くワークショップを開催する事とした。

3. 地域ワークショップ

ワークショップは初回を平成23年11月、次に令和元年5月に開催した。当日は役場職員、観光協会職員、林野庁職員、町内観光従事者、地元メディア、町民に至るまで幅広く参加を頂いた。(写真2・3)



写真2 ワークショップの開催



写真3 チームワークショップ

ワークショップでは1グループ6人程度に分けた上でテーマを定め、軽井沢観光全般に関する「要求事項」「現状の課題」「地域の制約」「改善目標」の順に参加者が自由に意見を出し合える様に進め最後に成果を発表した。ワークショップを通し感じた事は、地域観光に対する情熱と問題意識の高さであった。改善目標として特に注目した点は軽井沢は高地に属しており四季を通した素晴らしい変化に富む観光資源があるものの、近年の交通環境

も良くなった事で、逆に日帰り客が増えた事で十分に観光資源を活かしきれていないという点であった。特に冬期軽井沢の夜の観光コンテンツが少なく、ライトアップやイルミネーション等の開催の意見があった。

4. 白糸の滝ライトアップの企画

4-1 目的

ワークショップでの貴重な意見を踏まえ、白糸の滝でのライトアップを企画した。この企画の目的は、白糸の滝の夜の素顔を観光客の方に楽しんで頂く事で、軽井沢の冬の風物詩として定着させ地域観光に貢献する為である。冬の夜の観光コンテンツが出来る事で軽井沢に宿泊される観光客の増加にもつながる。イベントの目的より入場料は無料とし、当社と軽井沢町の共催という形で企画した。

4-2 制約

白糸の滝は環境省の定める上信越高原国立公園内の特別地域に指定されており、自然景観を維持する観点より制約も多い。特に自然景観を損なう行為は禁止されており、大切な観光資源を守る観点から当社も同様に保護維持に努めている。自然公園法では、国立公園内の催し(イベント)を開催する場合は、管轄する自然保護官との協議が必要である。特に自然を損ねない様その素顔を魅せる事が重要である。ライトアップする際は、周囲の植物や生息する鳥獣類に与える影響を考慮しなくてはならない。そこで当社は付近の生態を調査する事が必要と感じ、町内の専門的なNPO団体と共同で調査を開始した。

5. 生態系調査

通常なら静かで暗い時間帯における人工的な光が、自然環境に影響を及ぼさないかどうかを確かめる為、センサーカメラによる哺乳類の生息調査と白糸ハイランドウェイとその周辺の林道内でのライトセンサスを行った。(写真4・5)



写真4 センサーカメラ取付



写真5 カモシカの生態

この生態系調査を踏まえ当社は普段知る事の出来ない知識を得ることが出来た。調査により新たな生態資源を認知し大変有意義なものとなった。イベントはこれらの生態に影響を与えぬよう、開催内容は一定期間・場所の決められた時間帯を設定し配慮するように行っている。またイベントを経年的に行う毎に生態調査も並行し「森を守りながら魅せる」イベントへと進化させている。

6. 白糸の滝 真冬のライトアップ

生態系調査を通じ環境省への国立公園特別地域における催し（イベント）の届出を提出し、白糸の滝真冬のライトアップを実施する。その概要を以下に示す。

（令和2年度実績）

共催：（株）白糸ハイランドウェイ/軽井沢町

期間：12/19～2/14までの内週末特定の16日間

時間：17：00～19：00（2時間）

場所：軽井沢白糸の滝

ライトアップは、第一に白糸の滝の夜の素顔を映し出す事を根底にして、人工的な着色は最低限とし現地の星/水/雪/光が際立つ様配慮し照明を配置した。

（写真6・7・8）



写真6 白糸の滝ライトアップ



写真7 記念撮影をする観光客



写真8 寒さを利用した氷彫刻の実演

駐車場から白糸の滝へ向かう沿道200mは、竹を様々な模様で細工し竹灯籠にして足元保安灯とした。（写真9）



写真9 沿道の竹灯籠

訪れる観光客は、この竹灯籠沿いに滝へと向かう。見上げると晴天時には満点の星空を覗くことが出来、足を進めると雪景色した山肌から染み出る白糸の滝の水の恵み

を感じる事が出来る。これは夜の白糸の滝にしかない空間であり五感で満喫する事ができる。

7. ライトアップの実績

7-1 来場者数

年度を繰り返すごとに来場者数は増加しており、軽井沢の夜の風物詩として定着してきている。(表1・図3)

表1 年度毎来場者数

	開催年	来場者数 (人)
第4回	平成25年度	2,911
第5回	平成26年度	2,941
第6回	平成27年度	3,877
第7回	平成28年度	3,193
第8回	平成29年度	4,177
第9回	令和元年度	4,222
第10回	令和2年度	4,782
合計		26,103

※第1回～第3回は来場者数未計測

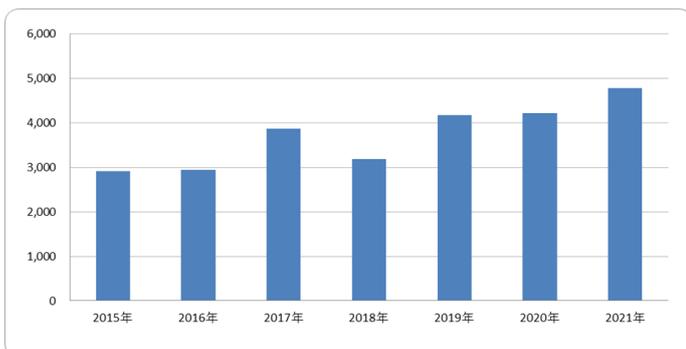


図3 来場者数の推移

7-2 来場者アンケートの実施

イベントでは観光客を対象としたアンケートを毎年実施している。アンケート方法はスマホからQRコードを読み取りアンケートフォームに入力頂く形で実施した。

(図4)

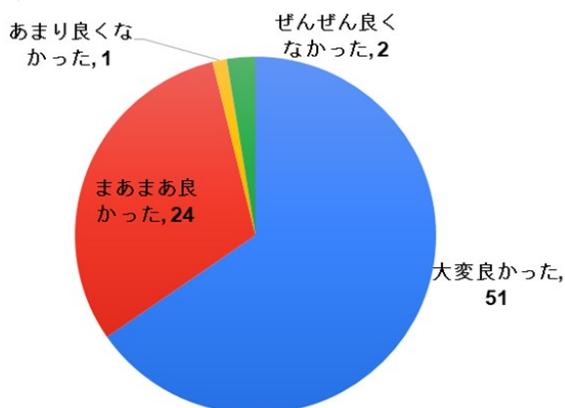


図4 アンケートによる評価

アンケートは観光客の満足度や次年度への改善を抽出する目的で行っている。令和2年度は78名の方に協力頂き、75名の方に「良かった」という回答を頂いた。

7-3 後援・協力団体・企業

令和2年度のイベントに後援・協力頂いている団体企業は以下の通りである。(表2)

表2: イベント後援・協力 一覧

共催	白糸ハイランドウェイ/軽井沢町
後援	軽井沢観光協会
	軽井沢町商工会
	信濃毎日新聞社
	株式会社 ガイアート
	株式会社 熊谷組
協力	株式会社 アイ・ピー・シー
	F M軽井沢

地域のイベントとして愛される為に町内企業に声をかけ広げているが、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い協賛企業は応募の自粛を行い後援・協力のみと限定した。

8. まとめ

このイベントは今より10年前に市民ワークショップを開催した際に、冬期軽井沢の夜の催しが少ないことに着眼しスタートした。当時は環境省特定公園内のライトアップは全国初でもあった。令和2年度で10回目の開催となり軽井沢の冬の風物詩としての認識が浸透してきている。

イベントの企画は観光客の声を生で聞くことを大切に、そのニーズに少しずつ答え続ける形で運営してきた。来場者数は年々増加しており、令和2年度はコロナ感染拡大防止対策を十分に行った上で継続し昨年を超える人数となった。このイベントを通し周遊型観光地の循環を円滑にさせる事が、白糸ハイランドウェイの道路としての価値向上につながる。

地域の観光資源は無数にあるが、逆にそれに気づかない事もしばしばある。その観光資源を上手に活かす事ができれば地域貢献につながる。今回も生態系調査で得た知識は観光客へのガイドにつながり、新たな発見として喜ばれる。地域の魅力探しは足を運ばないと発見できない。

今後も地域の観光資源を活用し、雪国でも年間を通したサービスが向上できるよう、観光客目線で取組を進展させたい。